

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「先進国ソブリンオープン・為替ヘッジあり（毎月決算型）（愛称 円のかげ橋）」は、このたび、第78期の決算を行いました。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、先進国のソブリン債（国債および政府保証債等）およびわが国の公社債、短期金融商品に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第78期末(2017年5月15日)

基準価額	8,798円
純資産総額	36百万円
第73期～第78期	
騰落率	△0.9%
分配金(税引前)合計	150円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

先進国ソブリンオープン・ 為替ヘッジあり（毎月決算型） （愛称 円のかげ橋）

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2016年11月15日～2017年5月15日

交付運用報告書

第73期（決算日 2016年12月14日） 第76期（決算日 2017年3月14日）

第74期（決算日 2017年1月16日） 第77期（決算日 2017年4月14日）

第75期（決算日 2017年2月14日） 第78期（決算日 2017年5月15日）

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社カスタマーサービス部へ

フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<http://www.okasan-am.jp>

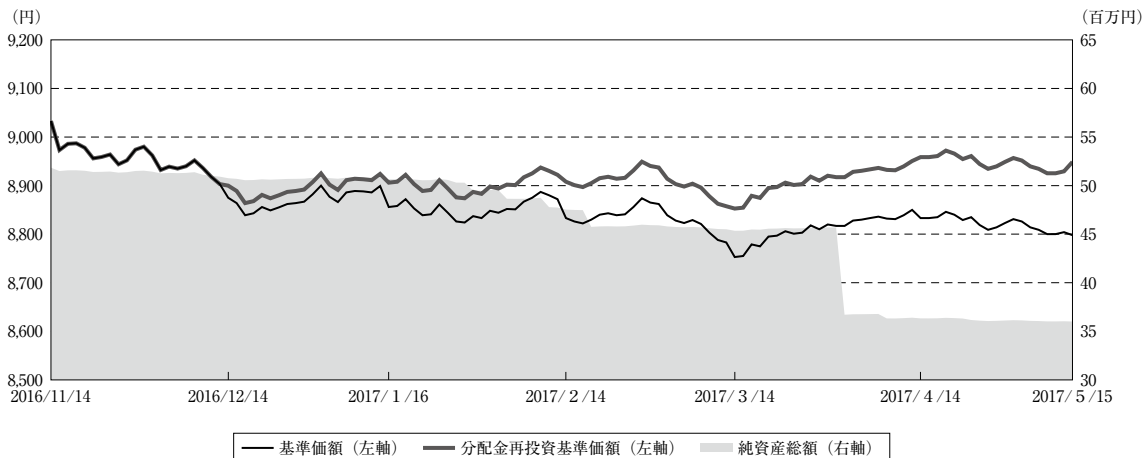
※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2016年11月15日～2017年5月15日）



第73期首：9,033円

第78期末：8,798円（既払分配金（税引前）：150円）

騰落率：△0.9%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2016年11月14日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

（主なプラス要因）

- 為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）
 - ・シンガポール国債の利回りが小幅上昇し、保有債券の価格が下落したものの、価格の下落を上回る利息収入を獲得したことがプラスに寄与しました。
- マネーポートフォリオ・マザーファンド
 - ・特にありません。

（主なマイナス要因）

- 為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）
 - ・米国債、カナダ国債、スウェーデン国債の利回りが上昇し、保有債券の価格が下落したことがマイナスに寄与しました。
- マネーポートフォリオ・マザーファンド
 - ・日本のマイナス金利政策の影響により、保有債券の利回りがマイナスとなったことが、マイナスに寄与しました。

1万口当たりの費用明細

（2016年11月15日～2017年5月15日）

項目	第73期～第78期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 29	% 0.323	(a) 信託報酬 = 作成期間中の平均基準価額 × 信託報酬率
（投信会社）	(10)	(0.108)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(18)	(0.199)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.006	(b) その他費用 = 作成期間中のその他費用 ÷ 作成期間中の平均受益権口数
（監査費用）	(1)	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合計	30	0.329	
作成期間中の平均基準価額は、8,869円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

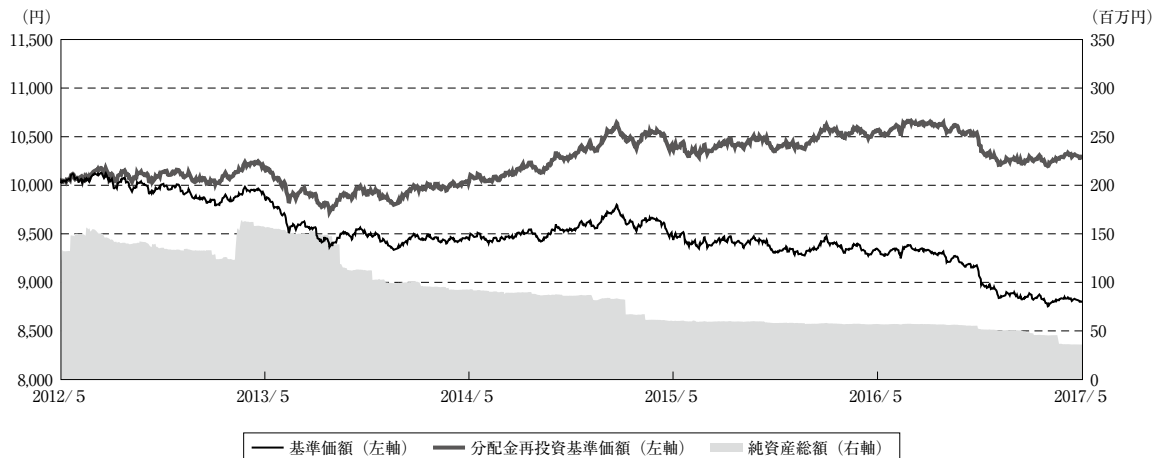
(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2012年5月14日～2017年5月15日）



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、2012年5月14日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2012年5月14日 期初	2013年5月14日 決算日	2014年5月14日 決算日	2015年5月14日 決算日	2016年5月16日 決算日	2017年5月15日 決算日
基準価額 (円)	10,021	9,861	9,440	9,436	9,327	8,798
期間分配金合計(税引前) (円)	－	300	300	300	300	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	－	1.4	△1.2	3.1	2.1	△2.5
純資産総額 (百万円)	122	156	92	60	57	36

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 当ファンドは、特定の指数を上回る、あるいは連動する運用を目指した運用を行っておりません。そのため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境

（2016年11月15日～2017年5月15日）

（先進国の債券市場）

米トランプ新大統領誕生による政策への期待や、米国の利上げ観測の高まり等を背景に、2016年12月中旬にかけて債券利回りが上昇しました。その後、米トランプ大統領による財政政策期待の後退や欧州の政治リスクへの懸念等から、2017年4月中旬にかけて債券利回りが低下しました。作成期末にかけては、欧州の政治リスク後退や米国の6月追加利上げ観測の高まり等を受けて、債券利回りが上昇しました。

（為替市場）

為替市場は、欧米金利が大幅に上昇した影響や日米の株価上昇を受けた投資家のリスク志向の強まりを受けて、2016年12月中旬にかけて米ドルを中心に主要通貨が対円で急上昇しました。しかし、地政学リスクや欧州の政治リスクの強まり、更には米国の政治的な混乱が懸念され、2017年4月中旬にかけて、主要通貨が対円で下落しました。その後は、欧州の政治リスクの後退や米国の利上げ観測の高まりを背景に、主要通貨が対円で反発しました。

（国内短期金融市場）

日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が継続する中、短期の国債利回りはマイナス幅が拡大する場面も見られましたが、日本銀行の国債買入れオペ減額等を受けて、作成期末にかけてはマイナス幅が縮小しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2016年11月15日～2017年5月15日）

<先進国ソブリンオープン・為替ヘッジあり（毎月決算型）（愛称 円のかげ橋）>

「為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）」、「マネーポートフォリオ・マザーファンド」の各投資信託証券を主要投資対象とし、「為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）」を高位に組み入れて運用を行いました。

○為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）**（債券組入比率）**

当作成期間を通じて、高位の組入比率を維持しました。

（為替ヘッジ比率）

米ドル、カナダドル、ユーロ、スウェーデンクローナ、シンガポールドルに対して為替ヘッジを行い、当作成期間を通じて高位のヘッジ比率を維持しました。

（国別投資比率および年限別投資配分）

アメリカ、カナダ、ドイツ、スウェーデン、シンガポールの国債に投資しました。当作成期間におきましては、米国債、カナダ国債、シンガポール国債の比率を比較的高位としました。また、相場動向に応じて、年限別の投資配分を調整しました。当作成期間におきましては、中長期ゾーンの比率をやや高めとしました。

○マネーポートフォリオ・マザーファンド

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益確保を目的に運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年11月15日～2017年5月15日）

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

分配金

（2016年11月15日～2017年5月15日）

分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額としております。当作成期間におきましては、第73期から第78期の決算期に、それぞれ1万口当たり25円（税引前）、合計150円（税引前）の分配を行いました。

なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項目	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
	2016年11月15日～ 2016年12月14日	2016年12月15日～ 2017年1月16日	2017年1月17日～ 2017年2月14日	2017年2月15日～ 2017年3月14日	2017年3月15日～ 2017年4月14日	2017年4月15日～ 2017年5月15日
当期分配金 （対基準価額比率）	25 0.281%	25 0.281%	25 0.282%	25 0.285%	25 0.282%	25 0.283%
当期の収益	23	22	23	23	25	23
当期の収益以外	1	2	1	1	-	1
翌期繰越分配対象額	413	411	410	409	411	409

（注）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下捨てて算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（投資環境）

債券市場につきましては、米国の追加利上げ観測や欧州中央銀行（ECB）が金融緩和策を縮小するとの観測等を背景に、利回りが上昇する展開が予想されます。ただ、物価の基調が弱いことや米国の政治に対する不透明感、中国経済の減速等への懸念が残ることから、利回りの上昇は限定的となると考えます。

為替市場につきましては、内外金利差の拡大や、世界的な景気回復期待を受けた投資家のリスク志向の強まり等を背景に、主要通貨が対円で堅調に推移する展開が予想されます。ただ、欧米の政治リスクや朝鮮半島を巡る地政学リスク等への懸念が強まる局面では、主要通貨が対円で下落する場面も想定されます。

短期金融市場につきましては、日銀の金融緩和スタンスを背景に、利回りはマイナスを含む低位での推移が続く見通しです。

（運用方針）

＜先進国ソブリンオープン・為替ヘッジあり（毎月決算型）（愛称 円のかけ橋）＞

「為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）」、「マネーポートフォリオ・マザーファンド」への投資を通じて、先進国のソブリン債およびわが国の公社債、短期金融商品に投資します。「為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）」の組入比率は高位を保つことを基本とします。

○為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）

自国通貨建て長期債務格付けがAAA格相当であるシティ世界国債インデックス（参考市場を含む）の構成国の中から、長短金利水準、イールドカーブ分析、ファンダメンタルズ分析を勘案して選定した債券に投資を行うとともに、外貨建資産については、為替ヘッジを行う方針です。当面は、米国債の組入比率を高めに維持する一方、シンガポール国債の組入比率を段階的に引き下げる方針です。

○マネーポートフォリオ・マザーファンド

わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とし、安定した収益確保を目的に運用を行う方針です。

お知らせ

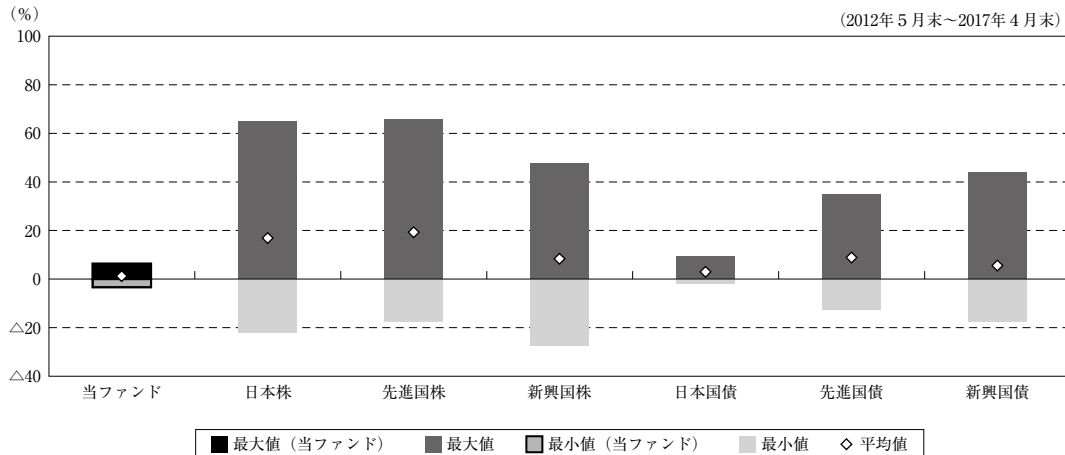
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2010年11月15日から2020年8月14日までです。	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、先進国のソブリン債（国債および政府保証債等）およびわが国の公社債、短期金融商品に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）およびマネーポートフォリオ・マザーファンドを主要投資対象とします。
	為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）	海外のソブリン債（国債および政府保証債等）を主要投資対象とします。
	マネーポートフォリオ・マザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方法	投資するソブリン債は、シティ世界国債インデックス（参考市場を含む）の採用国のうち、取得時において、AAA格相当の自国通貨建て長期債務格付けを有する国のソブリン債とします。 投資にあたっては、長短金利水準のほか、イールドカーブ分析、ファンダメンタルズ分析等により国別投資比率とデュレーションを決定します。 ポートフォリオ全体のデュレーションは、8年以内とします。 為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）の組入比率は高位を保つことを基本とします。	
分配方針	毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 繰越分を含めた配当等収益には、マネーポートフォリオ・マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	6.4	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△3.3	△22.0	△17.5	△27.4	△1.8	△12.3	△17.4
平均値	1.2	16.9	19.2	8.3	2.9	8.9	5.5

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注）2012年5月から2017年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年5月15日現在)

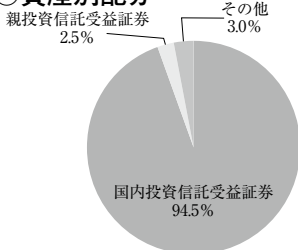
○組入上位ファンド

銘柄名	第78期末
	%
為替ヘッジ付ソブリンオープン(適格機関投資家専用)	94.5
マネーポートフォリオ・マザーファンド	2.5
組入銘柄数	2銘柄

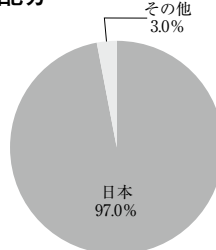
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

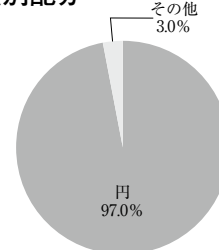
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

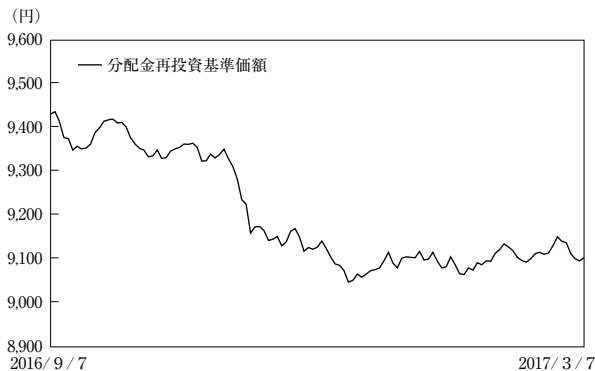
項目	第73期末	第74期末	第75期末	第76期末	第77期末	第78期末
	2016年12月14日	2017年1月16日	2017年2月14日	2017年3月14日	2017年4月14日	2017年5月15日
純資産総額	50,759,666円	50,650,414円	47,529,446円	45,348,019円	36,330,938円	36,009,037円
受益権総口数	57,192,589口	57,192,589口	53,809,618口	51,809,618口	41,129,618口	40,929,618口
1万口当たり基準価額	8,875円	8,856円	8,833円	8,753円	8,833円	8,798円

(注) 当作成期間（第73期～第78期）中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は16,462,971円です。

組入上位ファンドの概要

為替ヘッジ付ソブリンオープン（適格機関投資家専用）

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

（2016年9月8日～2017年3月7日）

項目	第82期～第87期	
	金額	比率
	円	%
(a) 信託報酬	10	0.107
（投信会社）	(7)	(0.080)
（販売会社）	(0)	(0.005)
（受託会社）	(2)	(0.021)
(b) その他費用	2	0.022
（保管費用）	(1)	(0.015)
（監査費用）	(1)	(0.006)
（その他）	(0)	(0.000)
合計	12	0.129
作成期間中の平均基準価額は、9,132円です。		

- (注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。
 (注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2017年3月7日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	US TREASURY N/B 8.75	国債証券	米ドル	アメリカ	8.7%
2	US TREASURY N/B 8.75	国債証券	米ドル	アメリカ	8.6%
3	SINGAPORE GOV'T 3.5	国債証券	シンガポールドル	シンガポール	6.6%
4	SINGAPORE GOV'T 3	国債証券	シンガポールドル	シンガポール	6.3%
5	US TREASURY N/B 8	国債証券	米ドル	アメリカ	5.9%
6	US TREASURY N/B 7.875	国債証券	米ドル	アメリカ	5.8%
7	US TREASURY N/B 8.5	国債証券	米ドル	アメリカ	5.6%
8	CANADA-GOV'T 8	国債証券	カナダドル	カナダ	5.5%
9	SINGAPORE GOV'T 3.125	国債証券	シンガポールドル	シンガポール	5.3%
10	CANADA-GOV'T 8	国債証券	カナダドル	カナダ	4.9%
組入銘柄数		21銘柄			

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。

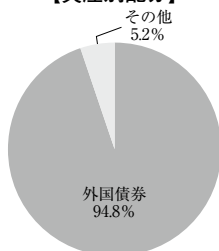
【外国為替予約取引の状況】

(2017年3月7日現在)

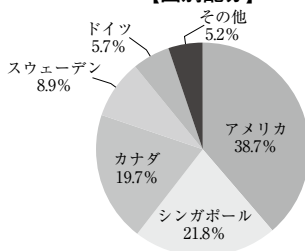
通貨		比率
買い	売り	
日本円	米ドル	37.3%
日本円	シンガポールドル	20.8%
日本円	カナダドル	19.1%
日本円	スウェーデンクローナ	8.7%
日本円	ユーロ	5.7%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する予約外貨評価額の割合です。

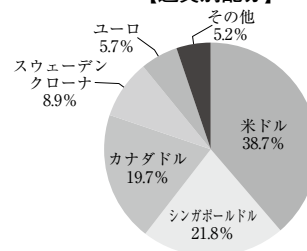
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

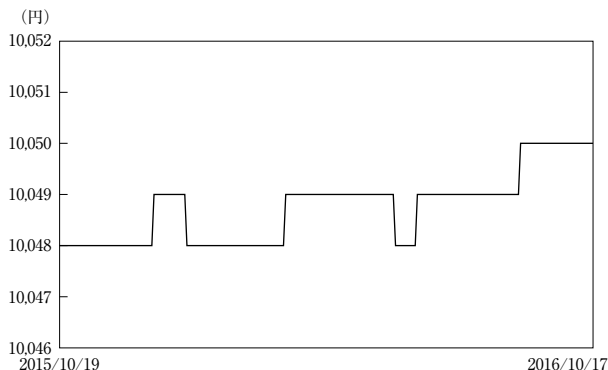
(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 通貨別配分につきましては組入債券の通貨別比率を表示しております。

組入上位ファンドの概要

マネーポートフォリオ・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年10月20日～2016年10月17日)

当ファンドには、信託報酬はありません。
また、当期において有価証券の売買委託手数料、保管費用等の費用は発生していません。

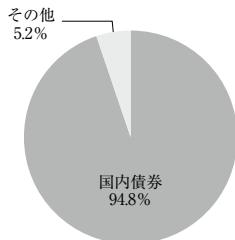
【組入上位10銘柄】

(2016年10月17日現在)

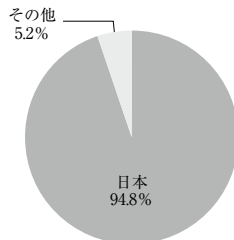
銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率
1 第105回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	28.4
2 第104回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	28.4
3 第102回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	28.4
4 第21回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	特殊債券	円	日本	9.5
5 -	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-
7 -	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-
9 -	-	-	-	-
10 -	-	-	-	-
組入銘柄数			4銘柄	

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。

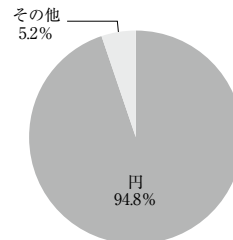
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。
(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書（全体版）をご覧ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。
なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。